

図書だより

2013年5月
倉吉東高図書委員会



教育実習生の先生方に聞きました「私のおすすめの1冊を紹介します！」

現在、教育実習で倉吉東高に来ておられる9名の先生方に、「おすすめの本」を紹介していただきました。図書館でも展示していますので、興味のある人はぜひ手にとってみてくださいね。

井上翔太先生

『古代ローマ人の24時間』アルベルト・アンジェラ著 河出書房新社

古代ローマ人がどのような暮らしを送っていたのか、とある一日を時系列に追って描き出されています。読んでいくうちに、目の前に約2000年前の様子がありありと浮かび、つい思いを馳せてしまいます。今では考えられないことがあるかと思いきや、現代にも通じるところもあり驚きの連続です。堅苦しい歴史書ではなく、専門知識がなくてもスラスラと読め、古代ローマについて楽しく学べるので読んでみてはいかがでしょうか。



梅津大貴先生

『壁を超える技術』西谷昇二著 サンマーク出版

著者である西谷昇二先生の言葉は、当時大学受験をしている私の心の支えでした。また、この本は受験生だけでなく、今何かチャレンジしている人にもお薦めできます。著者の熱い思いはきっと伝わると思います。では、最後にこの本に書いてある私の好きな言葉です。

Today is the first day of the rest of your life. Have a nice day.



小泉愛美先生

『指輪物語 第一部 旅の仲間』J・R・R・トールキン著 評論社

映画『ロード・オブ・ザ・リング』は知っていても、原作は読んでいないという方も多いのではないのでしょうか。一つの指輪をめぐってホビット族のフロドと8人の仲間が大冒険を繰り広げる壮大な物語です。原作を読んでから映画を観るとまた違った面白さが見つかると思います。前日譚の『ホビットの冒険』も合わせて読むとさらに面白いと思います。



小谷崇昌先生

『FLY, DADDY, FLY』金城一紀著 講談社

「だれでも一度は通る道だよ。自分の力を過信して、転ぶんだ。でも、そこから先は、ふたつのパターンしかない。怖がって限界の中で折り合いをつけていくか、諦めずに限界以上のものを追い求めるか。」この本を読んでから、自分が今どちらのパターンで生きているのかを考えるようになりました。この本の主人公は守りたいもののために後者を選びます。きっとこの本は読む人に諦めない心と力を与えてくれると思います。



津村和先生

『恋するオスが進化する』宮竹貴久著 メディアファクトリー新書

この本を読んだら、生物の性の不思議に少しだけ触れられ、雌雄の区別ができた進化の過程がわかるかも。そして、ヒト以外の生き物達の恋愛事情を少しだけ知ってしまう ことのできる一冊。時にはメスに選ばれるために、そこまでののかっ！と若干ひいて しまう程の行動を示し、進化する昆虫達。この本を読んだ女の子はこう、思うはず。“人間の社会も昆虫のように、メス(女子)に選ばれるためにオス(男子)が進化(変化)する社会になればいいのになぁ” って。



野田裕子先生

『家守綺譚』梨木果歩著 新潮社

亡くなった友人宅を管理する主人公に、次々と不思議な事が起こります。例えば庭のサルスベリに懸想されたり、池に河童が迷い込んだり…。一風変わった物語ですが、あまり気負わずにさくさく読み進めますよ。「西の魔女が死んだ」で有名な梨木先生ですが、他の作品も東高図書館に沢山あるので是非読んでみて下さい。

古川香織先生

『カラマーズフの兄弟』ドストエフスキー著 光文社古典新訳文庫

この本は、今年ドラマ化されました。大人でも理解するのは難しく、少し長く感じられますが、主な登場人物の三兄弟のさまざまな生き方や人間関係からいろいろ考えさせられる本となっています。その三兄弟の欲の塊の父親が殺害される前後の話が描かれています。古い本ですが、未だに多くの人に読まれている本であり、一読の価値あります。本当に難しいので読む際はある程度の心構えをお願いします。



森本裕成先生

『教えるということ』大村はま著 ちくま学芸文庫

先日、国語教育を研究している友人から紹介されたのがこの本との出会いです。教育学部に入ってから、様々や人々、また考え方に会おうことで自分にとっての理想の教師像、つまりどんな先生になりたいのかを考えてきました。本書では 50 年に及んで教師として実践の場に立ち、生涯を通して教育を研究された著者が本当の意味で‘教える’とは何かを語ってくれます。教師を目指す人も、そうでない人も、全ての人に是非読んでもらいたい一冊です。



山下竜先生

『これからのリーダーに贈る 17 の言葉』佐々木常夫著 WAVE 出版

校舎内の廊下に貼ってあった「高校生フォーラム」のテーマに目がとまりました。現代リーダー論、非常におもしろいテーマだと思います。私は、この本のここがいい、と勧めるわけではありません。あるテーマをもとに議論する上で、先行論者の見解を鵜呑みにすることなく、批判的な目をもって読み込むことは必須でしょう。参照すべき文献の一つとして読んでいただければ幸いです。ちなみにこの本は私が大学のアーチェリー部の主将に就任するにあたって勧められた本です。

